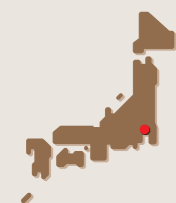


— 土と水と緑の技術で社会に貢献します。 —

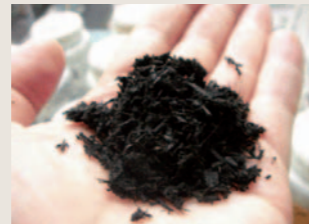
JCE 国土防災技術 株式会社



所在地: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目18番5号
 TEL : 03-3436-3673
 FAX : 03-3432-3787
 URL : http://www.jce.co.jp
 従業員: 370名
 設立: 1966年(昭和41年)
 代表者: 代表取締役社長 柳内克行



ネクストソイルを使用した培地実験



国産の原料だけで作られたネクストソイル



ネオインパクト使用前の森林下層植生



ネオインパクト使用後の森林下層植生



噴火した新燃岳の様子(九州森林管理局提供)



森林土壤につもる火山灰の状況



キカレス工法による外来種の生育の違い (左:キカレス 右:パーク堆肥)



地すべり調査で採取された粘土を使った土のバステル(DOPAS)写真はマスコットキャラクターのドバサウルス



津波の被害状況の調査



DOPASを使った出前授業の様子



小学生を対象とした森林内での総合学習



森林教育の様子

土と水と緑に関する技術とは

わが国土はアジアモンスーン地域に属し、さらに大陸プレートと太平洋プレートの境界に位置することから、台風、地震をはじめ、様々な自然災害を避けられません。弊社は、創業時から「地すべり、崩壊・落石、土石流」などの山地災害防止に関する建設コンサルタント、および施工管理に関する業務を主軸としております。今日では、対象とするフィールドを森林、農地、河川、海岸、都市地域と広げ、地域に密着した防災・環境・情報に至る総合的な建設コンサルタント兼建設業を目指しております。

これら技術の骨格は、防災や環境の基盤である「土と水と緑に関する技術」というキーワードで表せる分野とし日夜研鑽に励んでおります。

永遠の会社とは

弊社の目的は、上記のとおり技術で社会に貢献することであり、「会社を支える人材は変わろうと会社は永遠でなければならない」という創業者の強い信

念を維持しており、45年経過した今でも社是としております。

技術開発

- ・人工腐植土配合の土壤改良資材「ネクストソイル」を開発。自然界で100年に1cm形成されるといわれる腐植土。土壤の持つ様々な効果の源として知られる『腐植』を製造する手法を開発し、今まで使用されてきたパーク堆肥等の有機質資材を、より効果的に使用できる製品として様々なシーンでの緑化や土壤改良に利用されています。
- ・酸性土壤改良や土壤養分の供給に、ミネラル供給資材「ネオインパクト」を開発。火山灰の降灰地やpHの低い酸性土壤での緑化、長期間に間伐が行われず、酸性化した森林土壤の改良に使用されています。
- ・外来植物種の侵入防除緑化「キカレス工法」。植物の生態を利用した防除方法で外来植物種が好まない土壤環境を構築し、除草剤などの有害な

物質を使用しないで在来種での緑化を可能とする緑化工法を開発しました。周辺を農地に囲まれた道路のり面等で使用されています。

平成 23 年の主な実績

- ・ **新燃岳噴火に伴う森林内の火山灰被害土壤改良試験**
 1月26日に発生した新燃岳噴火に伴う森林被害状況(対象面積5,177.16ha)から、九州森林管理局、住友金属工業株式会社和歌山製鉄所の協力の下、強酸性の火山灰を製鋼スラグおよび人工腐植土で土壤改良するフィールド実験を実施・継続中。
- ・ **福島県における国有海岸林災害概況調査**
 3月11日の東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けた福島県内の国有海岸林の被害状況調査。被災メカニズムや復旧計画について検討し、その内容を第51回治山研究発表会で発注者と連名で発表し、最優秀賞を獲得。

環境と教育への取り組み

自然に寄り添って行う仕事の中で知る、その恐ろしさと大切さを伝える取り組みを全国各地で行っています。

- ・ CSRの一例として2004年より山形県南陽市において森林の間伐や下刈り等の活動を行い、企業の森作り事業「草木の森」づくりに取り組んでいます。
- ・ 様々な業務での経験や専門分野での知識を生かし、子どもたちへの環境学習、防災について考えるイベントや出前授業などを行っています。

東日本大震災では、多くの方が亡くなられ、また多くの貴重な財産を失いました。さらに7月から9月にかけても東北から関西、四国地方で豪雨、台風によって甚大な災害が発生しました。ここに謹んで亡くなられた方へ哀悼の意を、そして被災された方々へお見舞い申し上げます。そして、一日も早期の復興を祈念致します。

(文: 緑環境事業部主任 額綱裕美)